

平成25年度「実用化できる試験研究成果」目次（全30課題）

■ 普及事項 ■（計19課題）

生産者や技術指導者等が容易に利用することが可能で、普及定着により効率や利便性の向上などが期待され、普及定着を図る手法等が確立されている新たな成果

農業試験場

- | | | | |
|----|---|-------------|------|
| 1 | 湛水土中直播栽培におけるオリゼメート粒剤およびコープガード剤の減量施用による葉いもち防除 | （平成23年～25年） | （1） |
| 2 | 基肥一発型肥料を用いた秋冬どりキャベツ栽培では、追肥作業を省略しても収量・品質を安定して栽培できる | （平成24年～25年） | （3） |
| 3 | 「あきたecoらいす」におけるピラクロニル1キロ粒剤の田植同時散布による雑草防除体系 | （平成16年、25年） | （5） |
| 4 | 土壌の可給態リン酸を目安に、エダマメのリン酸減肥ができる | （平成25年） | （7） |
| 5 | 秋冬キャベツにおける畝内条施肥の雑草発生抑制効果 | （平成23年～24年） | （9） |
| 6 | 多収で酒造適性の優れる水稻新品種「ぎんさん（秋田107号）の育成 | （平成25年） | （11） |
| 7 | 種子が少なく糖度が高い三倍体スイカ新品種「秋試交16号」 | （平成20年～25年） | （13） |
| 8 | 糖度が高く食味の良い小玉スイカ新品種「秋試交17号」 | （平成19年～25年） | （15） |
| 9 | メロンえそ斑点病に抵抗性の春系緑肉アールス系メロン新品種「秋試交32号」 | （平成18年～25年） | （17） |
| 10 | メロンえそ斑点病に抵抗性の夏系緑肉アールス系メロン新品種「秋試交33号」 | （平成18年～25年） | （19） |
| 11 | 促成伏せ込みアスパラガスにおける根株の圃場放置による12月上旬出荷技術 | （平成24年～25年） | （21） |

果樹試験場

- | | | | |
|---|---|-------------|------|
| 1 | リンゴ樹に食入するキクイムシ類は薬剤散布で被害の拡大を抑制できる | （平成21年～23年） | （23） |
| 2 | ブドウ「シャインマスカット」の一文字短梢剪定栽培法による生産性の向上と作業の省力化 | （平成20年～25年） | （25） |
| 3 | ブドウ「シャインマスカット」の果実袋は青色袋が適している | （平成22年～23年） | （27） |
| 4 | 簡易被覆トンネル栽培によるブドウ「シャインマスカット」の果実品質向上 | （平成24年） | （29） |
| 5 | ブドウ「シャインマスカット」の短梢剪定法は第2芽剪定がよい | （平成20年～25年） | （31） |
| 6 | ブドウの枝幹害虫クビアカスカシバはフルベンジアミド水和剤で防除できる | （平成23年～24年） | （33） |
| 7 | ブドウ樹の主幹や主枝の粗皮剥ぎはクビアカスカシバの防除効果を高める | （平成23年～24年） | （35） |

畜産試験場

- | | | | |
|---|---|-------------|------|
| 1 | 比内地鶏去勢鶏「あきたシャポン」の生産技術－効率的な去勢方法および仕上げ期の飼育－ | （平成19年～23年） | （37） |
|---|---|-------------|------|

■ 参考事項 ■ (計11課題)

○研究・技術開発に有効な成果

- ・普及定着を目的とした手法等として確立される、一歩手前にある成果
- ・新たな知見として知らしめ、注意や取組等の喚起を促す必要がある成果
- ・研究者等が利用することで、効率や利便性が向上する新たな成果

○行政面に有効な成果

農業試験場

- 1 八郎潟干拓地水田における前期深水管理による水質汚濁物質の削減効果 (平成23年～25年) (39)
- 2 県内水田土壌の土壌炭素・窒素蓄積量の変遷 (昭和54年～平成24年) (41)
- 3 水稲湛水土中直播栽培における播種時のピラゾレート粒剤少量散布による雑草防除 (平成23年～24年) (43)
- 4 水稲湛水直播におけるシグモイド溶出型被覆尿素肥料を主体とした側条施肥 (平成22年～24年) (45)
- 5 トルコギキョウの抑制作型における育苗時の超微粒被覆憐安加里肥料添加による開花促進と切り花品質の向上技術 (平成25年) (47)

果樹試験場

- 1 県南部リンゴ園におけるハンノキキクイムシ越冬成虫の活動盛期は5月である (平成21年～23年) (49)
- 2 ブドウ「シャインマスカット」の果房重や成熟の早さは樹齢や着果位置によって異なる (平成20年～25年) (51)
- 3 リンゴ園でグラウンドカバープランツ導入による無除草は捕食性ゴミムシ成虫を増加させる (平成21年～23年) (53)
- 4 液状複合肥料の地表面灌注処理は主なリンゴ園土壌で紫紋羽病を抑制する (平成22年～24年) (55)

水産振興センター

- 1 スギ間伐材を利用したサクラマス人工産卵場造成の技術開発 (平成20年～21年、平成23年～25年) (57)

森林技術センター

- 1 ナラ枯れによる激害予測地域の分布図作成と予防対策 (平成20年～24年) (59)